

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1階)

事業所番号	0290100163		
法人名	社会福祉法人 徳誠福祉会		
事業所名	グループホームおきだて		
所在地	青森県青森市富田五丁目7番21号		
自己評価作成日	平成22年9月13日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 入居者と職員だけではなく、共に生活する家族という関係を心がけている。
- ・掃除・食事作り・洗濯たみ・買い物など生活するうえで必要な家事などは、一緒に行っている。
- 入居者が出かけたい所など、会話の中から見つけ出し、月一回行事を行っている。
- ゆったりとした生活空間を作ることを心がけている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	http://www.aokaigoyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0290100163&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年10月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣に学校・保育所・スーパーマーケットがあり、住宅地の中の街型施設で環境に恵まれ、内部環境も明るく落ち着いた居心地の良い施設である。開設2年目であり、全職員が希望と喜びを持って前向きに取り組んでいる様子がうかがえた。質の高い福祉サービスが提供できるよう、意見・提案・情報交換がいつでもできる会議の仕組みも整えられており、職員の間関係も良く、明るい家庭的な雰囲気が感じられ、お互い切磋琢磨し一人ひとりが福祉の心を持ち続けられるよう工夫されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>施設内に理念を掲げ共有し、実践している。</p>	<p>「家庭的で安心、安全な生活・自立した生活・人間として尊厳ある生活」を柱に独自の理念を作成している。ユニット会議等で共有化を図り、職員も一緒に家庭的な団欒の時間を持つ等工夫が見られるが、全職員が地域密着型サービスの役割を理解するまでには至っていない。</p>	<p>理念の共有化、地域密着型サービスの理解を図る作業の中で、パンフレットのキャッチフレーズである「地域の中で地域とともに」を生かした理念になるよう検討してみてもどうか。また、事業所の目指すものが明確になるようパンフレットに理念を記載することに期待したい。</p>
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>職員は、出勤、帰宅、外出時に近隣の方々や会った場合挨拶をする。回覧板を利用者と一緒に届けに行く。納涼祭等の行事では、地域の方々を招待し、交流している。</p>	<p>日頃から地域の方と挨拶を交わし、利用者と一緒に回覧板を届け、納涼祭等の行事に招待する等地域との交流に努めているが、地域の行事に参加できるまでには至っていないため、これから働きかけていく方針である。</p>	<p>地域に協力を求めるだけでなく、地域に貢献できる事項をアピールしながら地域に役立つ事業所として理解が得られるように、積極的に継続して働きかけることに期待したい。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議等で認知症の人について理解してもらっている。</p>	/	
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>避難訓練等、実際に行っている風景をみてもらい、改善点等を話し合いサービス向上に活かしている。今回、初めての自己評価及び外部評価の結果を説明していきたい。</p>	<p>運営推進委員の出席率は100%で委員は積極的に意見を述べている。今年度から実施の自己評価及び外部評価の結果について、報告し、説明する予定である。</p>	<p>話題を提供し、投げかけることで意見を出しやすく、さらに意見を求めることで委員の自覚も促されるようになるので会議の持ち方を工夫することを期待したい。</p>
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>疑問点等については、連絡を取ったりするが協力関係を築くまでにはいたっていない。</p>	<p>地域包括支援センターとの連携は密に取り合っている。また、必要があれば行政からアドバイスをいただいているが、協力関係を築くまでには至っていない。</p>	<p>行政に事業所の広報等を届け、積極的に根気良く足を運び、まずは顔を繋げ、コミュニケーションをとり情報交換ができる関係を築けるよう期待したい。</p>

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>玄関、非常口等の内鍵以外は鍵は設けず、身体拘束にならないよう取り組んでいる。</p>	<p>帰宅願望や外出傾向のある方を察知し、付き添う支援を行っている。身体拘束をしない取り組みをしており、運営推進会議等で町内会への搜索依頼書の様式を作成する等工夫されているが、身体拘束等排除のための取り組みに関するマニュアルが作成されていない。</p>	<p>契約書において身体拘束をしない旨が記載されているので、それを活かし、拘束せざるを得ないときの同意書、理由、方法、期間、観察記録等の様式を包含したマニュアルを作成し、全職員で共有し、再認識を促すことに期待したい。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修や勉強会等で学び職員でそれを共有していくことで防止に努めている。</p>	/		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修等で学ぶ機会を持っているが、職員全員が内容を理解しているわけではない</p>	/		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>家族等が納得するまで十分な説明は、行っている。また、電話連絡等でも対応している。</p>	/		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等が意見、要望を出しやすいように目安箱を設置している。運営推進会議等で、家族等の意見、要望等を表せる機会を作っている。</p>	<p>家族等が意見、要望を出しやすいように、利用者の暮らしぶり等を事業所の広報や個別の近況報告で定期的に情報提供している。面会時の家族とのコミュニケーションを大事にしており、よく話を聞き、必要に応じて会議等で検討し運営に反映している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を設け、意見や提案を聞いている。	リーダー会議、それに管理者を加えたユニット会議、全事業所の全職員による会議等が定期的に行われ、いつでも意見や提案が出せる状況にあり、検討結果はサービスに反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい等、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握、学歴や資格、実績にあった給与水準、労働基準法に則った労働時間、健康診断の実施等環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの学びたい研修内容を把握し、受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域ケア会議、懇親会等で他施設との交流する機会を持ち、情報交換等を行うことによってサービスの質を向上させている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者との会話を大切にし、不安や要望を伝えやすい環境をつくり、職員がその情報を共有した上で支援していく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向を聞き、施設での支援にできる限り取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援について、施設での生活上、可能な方法を職員で話し合い対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に作業したり、装飾のアイデアを考えたりしている。 食事の下ごしらえ等、その人に合わせて手伝ってもらっている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に家族と話し、入居者の生活の様子について情報を共有している。 物品購入にも協力してもらっている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が馴染みの人へ電話したい時は、すぐに職員が対応している。	本人や家族等から情報を得ることにより、利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所等の把握に努め、希望や意向にできるだけ沿うよう電話や外出等の支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなが作業しながら会話し、入居者同士が交流できるよう支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設先の相談や退居先の関係者に対して、利用者の状況、生活歴等の情報を伝え、働きかけている。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話にて希望、意向を聞き、把握に努めている。困難な場合には、それに近いものを検討し支援に努めている。	普段、コミュニケーションをとる中で表情や何気ない言葉を大切にし、思いや意向を把握するほか、面会時の様子等家族等から情報収集し、利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方に話を聞いたり、日常会話の中で本人から情報を引き出せるような声かけを工夫している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や申し送りをを行い、個々の様子を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに基づきモニタリングを行い、情報共有の話し合いをし、新しい介護計画を作成している。	日々の会話や職員の細かい気づき、生活歴等を参考にしながら課題等はユニット会議で話し合い、意見やアイデアを反映した利用者個別の介護計画となっており、必要に応じて随時見直しを行い現状に即したものとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、申し送り等で情報を共有するよう努めている。その生活状況を介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーへ入居者と一緒に食材の買出しに出かけている。 地域包括支援センターに困難な事例、苦情があった場合相談している。 在宅介護支援センターが主催する、介護予防教室等に参加している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族との十分な話し合いを行い、希望する病院を受診している。	本人及び家族と十分に話し合い、希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態や変化を常に連絡し、話し合ったうえで、適切な処置や対応を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、必要に応じてホームでの情報を提供している。 退院に向けた話し合いを、医師、家族と行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化や終末期の対応について事業所としての方針を明確にしている。 家族、医師とも話し合い、事業所でできることを十分に説明し、支援に取り組んでいる。	利用者の重度化や終末期の対応について事業所としての方針を明確にしており、入所時に説明をしている。また、現在、マニュアル作成中である。	重度化や終末期の対応についてマニュアルを整え、利用者、家族、医療関係者等と共有が図られることを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部の研修を行った職員もいるが、全ての職員が応急手当の訓練を行えていないが、今後学ぶ機会を作っていく。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震にそなえて、日中、夜間を想定した避難訓練を実施している。緊急連絡網やマニュアルを作成している。地域の代表との話し合いの場も設けている。	日中、夜間を想定した避難訓練を実施し、緊急連絡網やマニュアルを作成し、地域の代表との話し合いの場も設けているが、警察署への協力依頼はしておらず、災害時の食糧・飲料水等の備蓄はされていない。	すぐ駆けつけてくれる協力者の確保について、地域の代表者と話題にしたり、職員緊急連絡網の一覧表を利用して消防・警察等関係機関の連絡先を追加する等に期待したい。また、災害時の食糧等を備蓄し、いざという時運び出せる体制等の整備に期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重できるよう行動や声かけを行っている。	利用者の人格や尊厳を損ねることがないように、ユニット会議等で細かく確認し、プライバシーに配慮した声掛け等に努めているが、プライバシー保護に関するマニュアルの整備に至っていない。	利用者の個人情報が出れないよう事業所に入出入りする人達に注意を促す言葉かけをしてみてもどうか。また、プライバシー保護に関するマニュアルの作成に期待したい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表示が難しい利用者の思いを理解できるよう職員も努める。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望にそった支援を心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声かけや介助により身だしなみやおしゃれには支援している。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好みを把握し、食事が楽しくなるように努めている。	献立は利用者の好みに配慮している。利用者のできる作業を職員と一緒に、楽しく食事ができるよう配慮され、食べこぼし等へのサポートもさりげなく行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量のチェックをおこない、必要量の確保に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	能力に応じた口腔ケアは行えているが、毎食後は実施できていない。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立に向けトイレ誘導や声かけをおこなっている。 排泄チェックすることで、パターンの把握に努めている。	チェック表の記録を基に排泄パターンを把握し、事前誘導し自立を促している。また、オムツの使用についてはユニット会議等で話し合い自尊心を傷つけないよう配慮した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりに対して、下剤や水分補給、運動等で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが、本人の意志を尊重し、日にちをずらす等し、対応している。	一人ひとりの入浴習慣の把握に努め、週2日の入浴日にこだわらず希望に応じており、同性介助の希望や入浴拒否等にも柔軟に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠確保のため、日中に作業や体操で体を動かす等して過ごしていただいている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり、薬について理解できていない。副作用や症状の変化の確認には努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせて役割、楽しみごとは、支援しているが、気分転換とならないこともある。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば、出来る限り支援している。 家族との外出も機会があれば支援している。	普段のコミュニケーションの中から外出したい場所を把握しており、毎月1回の外出行事に生かし気分転換を図り、身体状況に合わせて外出支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物がある人には、一緒に同行するほか職員が、代わりに購入してくる等して支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも連絡できるよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度等）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温は常に調整し、音や光の刺激物は置かないようにしている。装飾品等で季節感を取り入れるよう努めている。	共用空間であるホールは季節感を感じられるよう手作りの飾り付けがされ、落ち着いた家庭的な調度品が配置されており、利用者が好みの場所でくつろげる居心地よいスペースとなっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室内は、一人ひとりに使いやすいように、空間づくりに努めている。リビングは、みんなで共有できるスペースをつくりあげるよう努めている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族、本人の希望を確認した上で居室内の置く場所や物を配置する。本人が過ごしやすい空間をつくるよう努めている。	利用者の居室は慣れ親しんだ物品が持ち込まれ、利用者の希望を取り入れ職員と一緒に使いやすさを考えたレイアウトになっており、家庭的な雰囲気に配慮され過ごしやすい空間になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに出来ることは行ってもらっている。必要に応じて介助するが、自立へ向けた介助にて支援している。			